

Be The Inspiration

Rotary International District 2760

インスピレーションになろう

2018-19 ガバナー月信

9

2018 SEP



あなたの街でロータリーを！
あなたの街からロータリーを！

CONTENTS

- 2 …… 表紙のおはなし
- 3 …… ガバナー便り
- 5 …… 【特別寄稿】 R I 理事退任慰労会 挨拶
元RI理事／第2760地区パストガバナー
斎藤 直美様より
- 8 …… 【特別寄稿】「ロータリーの友月間」によせて
ロータリーの友委員会委員長
一般社団法人ロータリーの友事務所代表理事
片山 主水
- 10 …… ろーたりーぱっちわーく



インスピレーションになろう

表紙の おはなし

写真提供：安川貴也（蒲郡RC）



「 蒲 郡 ク ラ シ ッ ク ホ テ ル 」

蒲郡クラシックホテルは蒲郡ロータリークラブの例会場。
昭和9年創業の外観は当時の雰囲気を残し数々のドラマの舞台にもなっております。
また市内からも見渡せる高台にあり名所でもある竹島からの外観も風光明媚。

「 竹 島 」

蒲郡のシンボルと言えば竹島。三河湾に浮かび、
長さ387mの橋で陸地と結ばれており、国の天然
記念物に指定されています。

また島には、日本七弁財天のひとつである「八百
富神社」があり観光スポットでもあります。



国際ロータリー 第2760地区
ロータリークラブ会員の皆様へ

The letter
from
Governor
ガバナー便り

盆明けに少し気温が下がったようでしたが、相変わらず暑い日が続いています。皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

8月はガバナー公式訪問が始まりました。訪問先のクラブではそれぞれの例会スタイルで歓迎をいただき有難く思っております。

今年度は『ロータリー100周年の鐘』なる、点鐘ゴングを持参して各クラブ会長さんに開会閉会時に点鐘をして頂いております。なかなか響きの良い鐘ですが専用の運搬ケースに入れますと、8～9kgとなり結構重い荷物となります。

キャリーケースにつけて運搬していますが、駅や会場の階段の運搬は大変でして、地区幹事さんにはご苦勞掛けながら、毎日運んでもらっております。

公式訪問は1つまたは2クラブ合同で行っていますので、夜間例会も含め51会場となります。2クラブの場合でも会長さん幹事さんとの事前懇談会も別々ですので、各クラブに親しく触れ合えているように感じています。

会長さんとお話ししていてほとんどの方が、会員増強を真剣に考えておられます。地域の人口減少傾向もあり、なかなか増強はできない状況ですが、前向きな増強活動を考えておられます。『ぱっちわーく』にも書きましたが、会員増強が会員増クラブ弱とならないように、クラブの将来像を見極めた戦略計画と入会後の研修の大切さをお話ししております。

分区内交流に関してもご理解いただけており、新会員の他クラブ訪問も積極的に取り組むお話もいただきました。また同じ分区内であっても、距離が離れ交通の便も不自由なクラブ同士の合同例会では、バスを仕立てたり車に乗りあわせなど、色々な工夫をしての参加をいただき、こちらも有難く感謝しております。

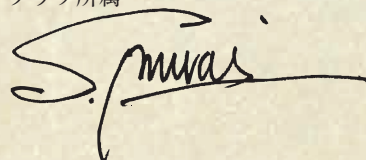
さらに、これを機に年度内に今度は逆に公式訪問時のホストクラブがビジタークラブに出向き、合同例会をする企画も聞かせていただきました。分区内交流の意図をご理解いただけて嬉しく思っております。

8月は会員増強月間でしたが、9月はロータリーの友月間です。

ロータリーの友委員会委員長・一般社団法人ロータリーの友事務所代表理事の片山主水P Gよりロータリーの友月間に寄せてで、ガバナーズウェブサイトにも特別寄稿を頂いております。

また元R I 理事の斎藤直美P GのR I 理事退任慰労会での挨拶文も特別寄稿とさせていただきます。専用のボタンがこのガバナーズウェブサイトにありますので、ぜひご覧下さい。

国際ロータリー第2760地区 2018-19年度ガバナー
豊橋ロータリークラブ所属



斎藤直美



地区ホームページは[こちら](#)

ガバナーズウェブサイトは[こちら](#)

元RI理事

第2760地区パストガバナー 斎藤直美様より

R I 理事退任慰労会 挨拶

お時間をいただきありがとうございます。

エレクトまで入れますと2年6ヵ月間エバンストン通いになります。その間感じた事をお話ししたいと思います。何せ80才に近づき脳軟化進行中につきまとまりませんが。

まず一つ目は、「日本と国際ロータリー（よく世界のロータリーと言いますが…）は少しかけ離れている」という、日本のリーダーが、長老が口にする事についてです。何について、何々だから、かけ離れているということなののでしょうか？私が推測するに、「ロータリーとは何か」を語り学習するプログラムも作らずに放置して、ひたすら奉仕活動を奨励し、その為の仲間を無節操に増やすその態度が、本末転倒であるという事だと思えます。片山パストガバナーがある会でのスピーチの時に、「あの人達は実に率直に抵抗感なく奉仕活動に手や足を使い、体を動かす。日本ではありえない光景である」と印象深い話をされました。「日本ではまず皆で討議し納得してから手足や体を動かす。」と続いたと推測いたします。条件反射的奉仕活動と、熟考検討型奉仕活動との差とでも申すべきでしょうか？この差は生まれ育った地域の歴史と文化・風習とに基づくものであると思います。

今年のガバナー村井さんは、7月17日の中部経済新聞で「やたらと奉仕団体へと傾きロータリーらしさがどんどん失われている。ロータリーの心をもっと学ばなくては。」と的確な指摘をされています。エバンストンでは、職業奉仕について在任中は議題として挙がったことはありませんでした。一度グループ分けされた理事4～5人の小委員会で、「職業奉仕という言葉は若い人に受け入れないので、文語を変えましょう。」と司会者であるアメリカの理事が言いました。議案として取り上げずに、さも当然とばかり自然にその語句を取り消しましたのでビックリした僕は、「一寸待って下さい！日本では言葉には心がある…2000年続く日本の仏教の教えだ。言葉が消えることは心を失うことだ。」と反対スピーチをしました。結局そのアメ

リカの理事は、語句を残してくれました。それを聞いたのでしょうか。事務方のリーダーは、「職業奉仕という言葉を残したいなら、COL（規定審議会）の場でドイツと手を組んで上程しなさい。」とアドバイスがあり皮肉られました。それが実情です。しかし待ってください！ラビンドラン、ジョンジャーム、イアンライズリーのスピーチには「四つのテスト」「職業分類」などに触れ、ロータリーの特長と、ロータリーの心に言及しています。2016年のCOLには、ロータリーは変わっていく、と嘆きともとれる言葉を、そのお三方から耳にしましたから。RIの中樞のリーダーは、ちゃんとロータリーの心を把んでいます。私は、ちゃんと把んだ上ですぐに条件反射的に、奉仕のための手足と体を動かしているのだ、と嬉しく感じ、このお三方には敬意を払っています。ひるがえって、日本はどうでしょうか。仏の人類学者・歴史学者のエマニエル・トッドさんが、朝日新聞に最近投稿（7/17）して日本の人口動態問題に触れて以下のように述べられています。「1990年代に訪日した時、少子化などの人口動態問題を語る人は多く、ヨーロッパよりも意識が高いと思った。以後16～17回訪日したが、人口動態危機について“日本人には何も行動しないまま議論し続ける能力がある”と今は考えている。」と皮肉たっぷり。「国力を増やしたければ人口動態に取り組むはずです。それをしない姿勢は、ナショナリズムとは云えません。」と結びました。日本のロータリーと職業奉仕にそっくりですから紹介させていただきました。日本は議論し納得すればどんどん力を発揮します。それがデータとなって現れ、RIで集積されています。実に素晴らしい日本ロータリーのデータであります。

二つ目は、諸外国はロータリーの勉強をしているのか？という疑問です。地域セミナー、コーディネーターそして研修会の奨励など型を作ってはいますが、効力はないようです。日本は国土が狭いこと、同一民族、同一言語文化の為すぐ浸透しますので、日本のロータリアンのレベルは高くなっていきます。2016年春のCOLで、クラブ運営の柔軟性と多様性が大幅に認可され、私は慌てふためき2016年のロータリー研究会のテーマの一つにしました。その後2年経つのに、日本のロータリーは中心的名門クラブの運営は変わりません。COLの影響はほとんどありません。理事1年の時に、青少年奉仕部門の危機管理について、あるロータリークラブのレイ

プ問題が取り上げられました。地区のクラブの危機管理システムがいかに大事か、解決済みだが討論されようとなりました。カーッととなった僕は、「12年も前の2005年に討議に入っている。R Iにはノウハウがあるはず。」と強い口調で言いました。青少年問題の事務方のトップに、「何故またこれが取り上げられるのか。」と聞きました。「きちんとしているのは日本だけです。」との返事でした。このように日本のロータリーは、R Iの方針に逆行することなく実に素直に方針を順守しているのです。R Iと少し乖離しているように見えるのは、事あるごとに職業奉仕を説きつつ社会奉仕プログラムを遂行する日本と、ダイレクトに社会奉仕に手足を動かす欧米、特に英語圏のリーダーとの差を見て乖離している、というのではないかと感じました。

三つ目は、日本のロータリーの優秀性についてです。理事としての1年間が終わろうとする4月ないし6月に、理事の責任管轄のゾーンの実態がデータで示されます。会員増強とロータリー財団への寄付（寄与率）の実績であります。日本は女性会員の比率と40才未満の青年会員の比率が低いのであります。これは日本の歴史と風習とに起因していると考え（いわゆる市民革命が行われず）、よって3代経過しないと日本は変わらないと開き直っていました。それ以外のデータはすべて優等生であります。僕らが努力するわりには会員の増加がありません。3ゾーン復活に向かって、失われた0.5ゾーンを取り戻す努力、18,000人増員を目指す（1年3,000人×6年間、または1年1,800人×10年間続ける）のが努力目標です。

四つ目は、日本のロータリー100周年記念事業計画と世界大会を日本へ誘致するテーマが「R I理事会へ発信する作業」検討事業として残りました。

以上、とりとめのない感想となってしまう、貴重なお時間を潰してしまいました。が御許し下さい。そして、理事をまっとうするようにと励まし続けて下さいました。パストガバナーの皆様に熱くお礼申し上げます。ありがとうございました。

（2018年8月2日諮問委員会委員によるR I理事退任慰労会での講演原稿より）

「ロータリーの友月間」によせて

ロータリーの友委員会委員長
一般社団法人ロータリーの友事務所代表理事
片山 主水

ロータリーの友月間によせて、両『友』からご挨拶申し上げます。

『ロータリーの友』は、1952年昭和27年7月、日本のロータリーが2地区に分割されるに際し、両地区の親睦交歓・情報交換と、併せて、購読義務のあった機関誌『The Rotarian』の記事の一部の翻訳文の掲載を目的に、月刊誌の発行を現・前ガバナーが協議・合意し、誌名は『ロータリーの友』と決め、RIとは無関係に、両地区内の会員誌として、翌1953年1月号から両地区の共同発行となったものです。発行部数は3300部といわれています。

RIは、1977年、細則等を改正・整備して、RIの機関誌『The Rotarian』のほかに、有用な地域機関誌の認可の方針を決め、地域より申請があれば、その規準・認可条件による2年間の観察的プログラムの試行を審査し、その成績により可否を判定・認可し、以後、4年毎に更新手続をとることを公表しました。

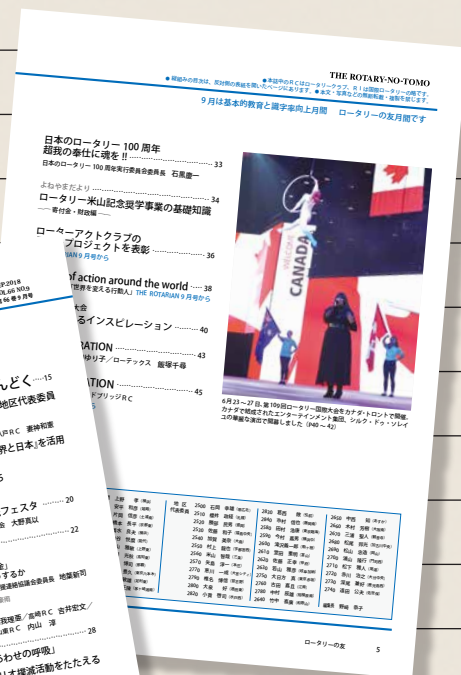
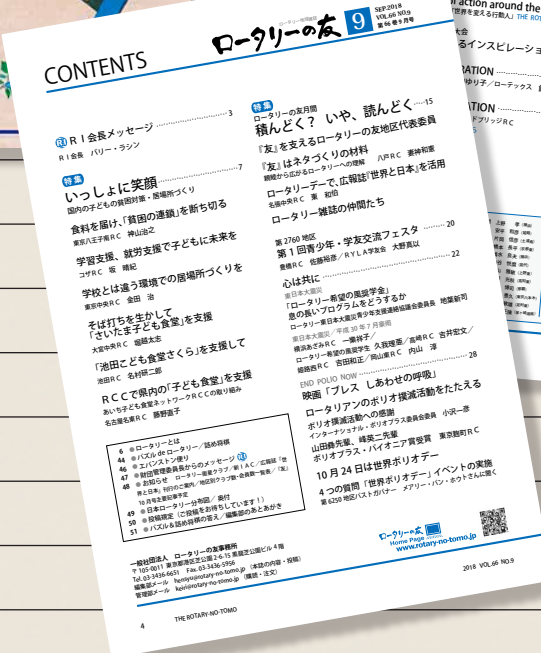
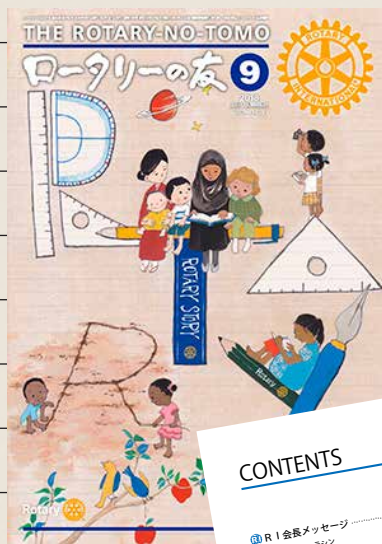
日本のロータリーは、当時の22の地区の各ガバナー全員が、各地区内のほぼ全クラブの賛成を得て合意し、ロータリーの友編集委員会（両『友』の前身）の名をもって申請し、厳しい審査を経て、1980年7月号から、公式地域雑誌発行の認可を得ました。

以上の経過のように、認可により機関誌の役割が付加し、大きく変化しましたが、『友』誌が発行されるのは、一貫して、日本ロータリー全会員の熱い意思があるからこそですし、両『友』が発行するのは全会員の熱い負託があるからで、この点は変わっていません。

両『友』も、熱意と負託に応えるため、委員・役員・職員が一丸となって、読み易く、面白い、読み応えのある『友』を目指して努力しているところです。

その重大な一翼を担っていただいていますのが、各地区内の情報を把握し、全会員の意思を集約されている各地区ガバナーと、多忙なガバナーに代わって両『友』との橋渡しされる各地区の『地区代表委員』の方々です。会議開催の折には、声をお掛け下さい。

ガバナー補佐さんをはじめ地区幹事、地区委員長の方々、そして各クラブ会長・幹事・委員長の皆さん、今月は『ロータリーの友』強調月間です。当地区の代表委員は、古田嘉且さんです！



ロータリーの友
9月号

<https://rotary-no-tomo.jp/>

ロータリー ぱっちわく

その5
村井ガバナー的まごころ

会員増強について考える

7月は会員増強月間であった。各クラブ共に会員数の増加には意識を高く持たれている。とはいってもこの会員増加は当初の目標を達するにはかなりの努力がいる。会員の増加よりも減少を食い止めて維持をしてゆくのは、なかなか困難であるというクラブの声をも聞く。

実際に日本の会員数は減少しており、9万人台となり3ゾーンであったのが、2.5ゾーンになることとなった。元の3ゾーンに戻すには各ゾーン3.5万人として10.5万人であるから、あと1.5万人の増加は必要となる。

しかし、これは日本の問題であって、R I の会員増強月間との関係は薄い。クラブでなぜ会員増強が必要なのかを考えてみる。

まず、ロータリーは良いことをしている、これからも良いことをして行こう、だから多くの人に参加してもらおう。みんなを誘い合って良いことを広げて行こうという考えが根底にある。つまり全体で行う社会奉仕、国際奉仕に主体をもっていて、日本のロータリアンの多くが唱える個人の奉仕（アイサーブ）とは少し異なる方向である。

次に数の必要性を考えてみる。良いことをするには多くの人と繋がって行かねばならない。さらに事業費用の必要性から、多くの人から寄付を集めなくてはならない。そのために会員を増やそうということではないかと感じている。

これをR I 戦略計画では、会員基盤の強化、会員基盤の多様化と言っている。本来はロータリーの成長のために、リーダーの養成や革新的な計画の樹立が表に出なくてはならないのに、会員増強が当面の課題となっている。

会員増強については、日本のロータリアンの中で、ロータリーは入れてくれと言っても入れる会ではない、入ったからには個人が例会の場で学び、各職場で個人として奉仕すればよいのであって、数の多さは不要であると考えの方々と相入れないように思う。

話が少々 R I の方針の説明とは離れていきそうなので、会員増強をもう少し考えてみる。

となると、量と質という問題が浮かんでくる。

会員増強ならばよいが、会員増弱とならないようにと、ある方が仰っておられた。まさに至言である。増弱とならないためには、会員の増加努力と共に、入会後のオリエンテーションは必要である。ロータリーの活動を理解することで、ロータリーが楽しくなり、長く会員でいることにつながる。

このオリエンテーションがなかなかタイミングよくできにくく、新会員研修が地区で毎年行われるがそれだけでは十分ではない。一番は先輩会員が寄り添うことであると考える。例会場で自クラブの話をしたり、同好会活動を一緒に行ったりして、仲間となってもらうことである。これを急ぎすぎると古参会員にとってはクラブの様相が変わったと感じられ、新会員とともに戸惑いが生じ、去って行こうとする方も増える懸念がある。ここに世代を超えた会員同士の親睦の重要性を感じる。

甘い言葉で勧誘して入会させれば良い、ではなかろうが、難しいことは抜きにしてとりあえず入会を促しても、入会後は早くロータリーを理解してもらいロータリアンとしての、自覚と喜びを共有できるように導いてほしい。

さらに、新会員が定着するには、やはりクラブが輝いていること、奉仕の理念のもとロータリー活動をしていて、自分もその一員であることに誇りが持てることであらう。

クラブが輝き魅力あることが、会員増強にも退会防止にも必要なことであることは言うまでもないことである。

RID2760 2018-19 ガバナー 村井 總一郎

ロータリー ぱっちわく

その6
村井ガバナー的こころ

分区内交流について考える

7月にスタートした新年度も二月を過ぎ、ガバナー公式訪問も始まった。

ガバナー補佐の事前訪問からも、分区内交流の他クラブ訪問について、すでに各クラブで実施されていることが伝わってくる。

ガバナーサイトの分区内交流のコーナーにも、投稿が寄せられている。感想の多くは初めて自クラブ以外の例会に出た人が多いということだ。最近はメイクアップが前後2週間となり、サインでのメイクアップの方が安易にできるので、より他クラブに出席することが少なくなっている。

よほど馴染みの方がいて例会場で打ち合わせの必要性でもない限り、訪問する人が少ないのは仕方がない。おまけにビジターフィを払い、ニコニコBOXまで考えると、相当な出費となると考えている人も少なくはないと思う。

今回、分区内交流の一つとして、3年未満の会員に他クラブの例会に出て、様々な体験をしてもらおうと考えてみた。私自身も卓話に呼ばれて地区内30クラブ以上にお邪魔したが、各クラブの運営方法にはいつも新鮮な驚きを感じていた。体操から始まったり、握手で始まったり、例会最後に謡曲（うたい）を謡ったりと様々なことが体験できた。

研修リーダーとして参加した新会員研修の場で、多くの新会員から他クラブの例会に出たことがない、出来れば出てみたいが一人では行きにくい、などの意見がフリーディスカッションなどで多く出ていた。

そこで、先輩会員とともに行くような後押しを地区としてできないか、と考えていた。

ガバナーエレクト研修会の席で、2610地区（富山石川）のガバナーエレクトから、金沢では市内のメイクアップのビジターフィは無料で、お互いに行き来しているとの話を聞いた。金沢のロータリークラブに在籍されていた神野PGからも同じ話を聞いた。

そこで、2760地区においては、先輩会員が新会員に同行して他クラブの例会に訪問し新会員の費用を負担するのはどうかと考えた。

これにはいくらガバナー方針とは言え、スタッフも驚いたことと思う。しかし気持ちよく理解してくれて、事業予算も捻出できた。あとはどのくらい、実施してくれるかである。

他クラブに行くというのは結構緊張するものである。また市内の各クラブは親子関係にもあり、普段からの交流も深い。では少し遠いクラブはどうであろうか。同じ分区でありながら名前は知っているが、どんな例会をしているかわからない、それを見に行くのも良いのではと考えた。

ガバナー公式訪問の組み合わせがそうである。実際のところビジター側は往復の時間にかかるし、受け入れ側は例会場のキャパシティなど問題があり、様々な意見ご指摘も当然であるが、上記の理由から友愛の精神でご理解を願いたい。

今年度のRI会長テーマは『インスピレーションになろう』であるから、他クラブに出てインスピレーションを大いに感じてほしいものである。

また、他クラブの運営の多様性や柔軟性も見てほしい、何かインスピレーションを感じるものがあると期待している。

重要なのは、良さを見ることであり、あれはダメ、これはダメ、何の役にも立たないと考えないことである。ロータリアンの寛容の精神で見てほしい。

特に会員歴の長い会員には、新会員に適切なアドバイスをお願いしたいものである。

RID2760 2018-19 ガバナー 村井 総一郎

新着情報をホームページ(HP)で公開しています

各種お知らせをはじめ定期配信コンテンツは、ガバナー月信発行に合わせHPにて更新します。各バックナンバーも閲覧しやすくなりました。

<https://www.rotary2760.org/g18-19/>

定期配信

■ガバナー月信サイト

村井ガバナーのコンテンツやブログを掲載
メニュー>ガバナーズウェブサイト(各ページへ)

■ハイライトよねやま

メニュー>月次報告(PDF)
vol.221 2018/8/14発行

■コーディネーターNEWS

メニュー>月次報告(PDF)
2018年9月号 2018/8発行

■財団室ニュース

メニュー>月次報告(PDF)
2018年9月号 2018/8/末頃発行予定

コンテンツタイトルをクリックすると
リンク先PDFを開きます。

■文庫通信だより

メニュー>月次報告(PDF)
371号 2018/8発行

■風の便り

メニュー>月次報告(PDF)
vol.4 No.1 (通刊49号) 2018/8/16発行

■会員数と出席率

メニュー>月次報告(PDF)
※2018年8月度分は9月中旬以降の配信となります。

お知らせ・お願い

■ガバナー候補推薦について

メニュー>お知らせ

■各種賞・表彰の概要について

メニュー>お知らせ

■立法案提出のお願い

今年の提出期限は終了しました。

■WFFのお知らせ

メニュー>月次報告>ご案内

■地区大会のお知らせ

メニュー>月次報告>ご案内

■青少年交換のお願い

今年の募集は終了しました。
ご協力ありがとうございました。

活動報告・その他更新記事

「ロータリーの友月間」によせて

ロータリーの友委員会委員長
一般社団法人ロータリーの友事務所代表理事
片山 主水

「基本的教育と識字率向上月間」によせて

地区国際奉仕委員長 鈴木 宏司

ガバナーやスタッフのブログもガバナーズウェブサイトで更新中！

■分区内交流だより

本年度は、他クラブ例会への積極的参加を推進しています。

■地区委員会報告

20委員会全ての活動情報を随時更新しています。



最新情報の取得はメールマガジンが便利です！……………

最新記事リストはメールマガジンでも配信します。リストをクリックするだけで
閲覧したいページをブラウザで展開します。是非、活用ください。

